

## 東大雪 VR ビデオ

### 十勝三股：過去への列車の旅

1.ご乗車いただきありがとうございます。20 世紀半ばに林業の町として栄えた十勝三股の旅へ皆さんをご案内します。

2.明治時代（1868～1912）以前、十勝三股カルデラを覆っていたのは原生林です。エゾマツ、トドマツ、そしてダケカンバの木立が、豊かな火山性の土壌で力強く育ちました。この辺りはかつて無人地帯でした。

3.1936 年、その巨大な木々の多くを猛烈な台風がなぎ倒します。噂は広まり、各地の木こりたちが原生林の巨大な大木を集めにやってきます。

4.この未踏の地には道路も鉄道も走っていないため、木材は音更川を通して輸送されます。

5.日本国有鉄道が士幌線を拡張した 1939 年、糠平と十勝三股が接続され、新たな時代が幕を開けます。巨木は木材運搬車に載せられ、鉄道で輸送されるようになります。それでもまだ、この急成長を遂げる伐採開拓地に道路はありません。

6.線路拡張の一環として、音更森林鉄道が増築されます。十勝三股の開拓地にある材木置き場から山の中へと続く線路です。

7.森の奥深くにある終点の駅には立派な建物が建設されます。木材搬出の手配を統括する林業管理事務所です。

8.機関車修理工場をはじめ、十勝三股周辺にはあらゆる建物が出現するようになり、町は瞬く間に木材産業の一大中心地となります。

9.1954年9月、破壊的な台風が再びこの地域を襲います。被害は甚大で、伐採20～30年に相当する木々がなぎ倒されます。

10.[田中さん]「風は相当強く、木工所の屋根が飛ばされました」。

11.伐採者や村の人々は、急いで倒木の撤去にあたります。放置しておくと、まだ倒れていない付近の木々に害虫の侵入を許してしまう危険があります。

12.開拓地が成長を続ける中、飲食店、小売店、宿泊小屋、集会所などが誕生していき、十勝三股の人口は遂に 1,000 人を超えます。

13.家庭が増え、小学校や中学校が建設されます。お祝いごとや祭りが開催され、活気のある町へと変貌を遂げます。

14. 毎日、60～70 台の木材運搬車が十勝三股駅を出発します。列車の速度は速く、「弾丸」に例えられます。

15.列車は途中で貨物を回収します。50 キロ先の帯広までの所要時間は 3 時間です。

16.1955 年、ディーゼル駆動の旅客列車が運行を開始しますが、貨物は引き続き蒸気機関車によって運搬します。そのおかげで、列車の遅延は減少します。より速い旅客列車が追加されたことで、学生たちは帯広の学校への通学が可能になります。

17.同年、糠平と十勝三股を接続する道路が開通します。木材がトラックで運搬できるようになり、鉄道線路時代の終わりが告げられます。

18.間もなくして、音更森林鉄道と林業管理事務所は閉鎖されます。

19.1970年代になると、木材産業は急激に衰退します。伐採者はより大きな町へと移動し、十勝三股の人口は減少し始めます。1976年、小学校と最後の製材所の両方が閉鎖されます。

20.乗客が減り、運ぶ木材もなくなり、土幌線では1978年に、糠平—十勝三股間で代行バスの運行が開始されます。9年後、土幌線のすべての路線が廃止されます。

21.50年という歳月の流れの中で、木材産業は好況から不況へと転じます。

22.土幌線の廃止から30年以上が経ちました。今では、橋や駅のプラットフォームなど、鉄道の駅跡などが残っています。

23.かつて栄えた十勝三股の家々や事業所は、ほとんどが姿を消しました。カルデラの空地の中に、ぽつんと家が2軒残っているだけです。

24.かつてここで伐採されていた昔からの森は、短期間で消えてしまいました。しかし、自然が再びこの土地を取り戻しました。

25. 今日、この土地を覆う深い森には、かつてここに存在した林業の町の面影すらありません。現在では、大雪山国立公園の美しい風景を楽しむことのできる場所となっています。